

# 十字架の預言④

シリーズ～預言者の声～

2022/4/10 レント

# 十字架(受難)に関する預言

裏切られる

銀貨30枚で売られる

その金は陶器師に与えられる

弟子が離れていく

刺し貫かれ、打たれ、傷を負う

神に見捨てられる

衣がくじ引きにされる

嘲られる

渴く

人間の罪の身代わりとして死ぬ

骨は砕かれない

突き刺した者を見る

富む者と共に葬られる

など

# 十字架を預言した預言者たち

- モーセ／出エジプト(過越の出来事)
  - 初子を身代わりにして助かる
- ダビデ／詩編22篇
  - 「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」
- イザヤ／イザヤ書53章
  - 苦難の僕
- ゼカリヤ／ゼカリヤ書
  - 子ロバに乗られる
  - 銀貨30枚で売られる

# ゼカリヤ書について

## • 著作背景

- 「エルサレムの神殿の工事は中断されたまま、ペルシアの王ダレイオスの治世第二年にまで及んだ。預言者ハガイとイドの子**ゼカリヤ**が、ユダとエルサレムにいるユダの人々に向かってその保護者であるイスラエルの神の名によって預言したので…神殿建築を再開した。」エズラ記4:24-5:2
- 「ダレイオスの第二年八月に、イドの孫でベレクヤの子である預言者ゼカリヤに主の言葉が臨んだ。」ゼカリヤ書1:1

バビロン捕囚から帰還後、神殿建築を中断していたが、ハガイとゼカリヤによって語られた主の言葉によって再開された

# 子ろばに乗ってエルサレム入城

## • ゼカリヤ書

- 「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。」9:9

## • マタイ福音書

- 「弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、ろばと子ろばを引いて来て、その上に服をかけると、イエスはそれにお乗りになった。大勢の群衆が自分の服を道に敷き、また、ほかの人々は木の枝を切って道に敷いた。」21:6-8

# 散っていく弟子たち

## • ゼカリヤ書

- 「剣よ、起きよ、わたしの羊飼いに立ち向かえ／わたしの同僚であった男に立ち向かえと／万軍の主は言われる。羊飼いを撃て、羊の群れは散らされるがよい。わたしは、また手を返して小さいものを撃つ」13:7

## • マタイ福音書(最後の晩餐の後で)

- 「そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散ってしまう』と書いてあるからだ。」26:31
- 「このすべてのことが起こったのは、預言者たちの書いたことが実現するためである。」このとき、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。」26:56

# 銀貨30枚で売られる

## •ゼカリヤ書

- 「私は彼らに言った。『もし、あなたがたがよいと思うなら、私に賃金を支払え。そうでなければ、払わなくてもよい。』彼らは私の賃金として銀三十シケルを支払った。主は私に言われた。『私が彼らによって値踏みされた尊い価を、陶工に投げ与えよ。』そこで私は、銀三十シケルを取り、それを主の神殿で陶工に投げ与えた。」11:12-13（新共同訳2018年）

# ゼカリヤ書11章の内容

- 「愚かな羊飼い」についての裁きの預言
  - イスラエルの民を間違った方向に導いた指導者たちのこと
- 主は「好意」と「一致」と名付けた杖を折る
  - 「好意」: 周囲の国々とのよい関係
  - 「一致」: ユダとイスラエルの兄弟関係
  - 周囲の国々から憎まれ、南北も敵対する
- 「愚かな羊飼い」が「良い羊飼い」を値踏みする
  - 「銀三十シェケル」: 奴隷一人分の値段
  - 「良い羊飼い」はこの金を陶工に投げ与える
    - 神を侮辱した金が記念として残る
    - なぜ「陶工」なのか？

# マタイ福音書

(26:14~16) そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは**銀貨三十枚**を支払うことにした。そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

(27:1~10) 夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同は、イエスを殺そうと相談した。そして、イエスを縛って引いて行き、総督ピラトに渡した。

そのころ、イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が下ったのを知って後悔し、**銀貨三十枚**を祭司長たちや長老たちに返そうとして、「わたしは罪のない

人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、相談のうえ、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人の墓地にすることにした。このため、この畑は今日まで「血の畑」と言われている。こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。「彼らは銀貨三十枚を取った。それは、値踏みされた者、すなわち、イスラエルの子らが値踏みした者の価である。主がわたしにお命じになったように、彼らはこの金で陶器職人の畑を買い取った。」

人の血を売り渡し、罪を犯しました」と言った。しかし彼らは、「我々の知ったことではない。お前の問題だ」と言った。そこで、ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ。祭司長たちは銀貨を拾い上げて、「これは血の代金だから、神殿の収入にするわけにはいかない」と言い、相談のうえ、**その金で「陶器職人の畑」**を買い、**外国人の墓地**にすることにした。このため、この畑は今日まで「血の畑」と言われている。こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。「彼らは銀貨三枚を取った。それは、値踏みされた者、すなわち、**無実の者の血**の代金である。主がこうに、彼らはこの金で陶器

19:1「陶器師」  
19:4「無実の人の血」

# 師を売った弟子

- **金入れを預かりながら盗みを働いていた**
  - 「弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。『なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。』彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心に掛けていたからではない。彼は盗人であって、金入れを預かっていながら、その中身をごまかしていたからである。」ヨハネ12:4-6
  - 金に取り付かれていた
- **そこにサタンが取り入った**
  - 「しかし、十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った。ユダは祭司長たちや神殿守衛長たちのもとに行き、どのようにしてイエスを引き渡そうかと相談をもちかけた」。ルカ22:3-4

# 師を売った弟子

- **金入れを預かりながら盗みを働いていた**
  - 「弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。『なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかつたのか。』『彼は盗人であって、金の中身をごまかしていたから。』」コハイン12:4-6
  - 金に取り付かれていた
- **そこにサタンが取り入った**
  - 「しかし、十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った。ユダは祭司長たちや神殿守衛長たちのもとに行き、どのようにしてイエスを引き渡そうかと相談をもちかけた」。ルカ22:3-4

サタンは人間の弱点を突いてくる！

# 師を売った弟子

- **金入れを預かりながら盗みを働いていた**
  - 「弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。『なぜ、この香油を三百デナリオンで売って、貧しい人々に施さなかったのか。』彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを心に掛けていたからではない。彼は盗人であって、金入れを預かっていたながら、その中身をごまかしていたからである。」ヨハネ12:4-6
  - 金に取り付かれていた
- **そこにサタンが取り入った**
  - 「しかし、十二人の中の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダの中に、サタンが入った。ユダは祭司長たちや神殿守衛長たちのもとに行き、どのようにしてイエスを引き渡そうかと相談をもちかけた」。ルカ22:3-4

# 自殺したイスカリオテのユダ

## • 予期せぬ結果にうろたえたユダ

- イエス様は「罪のない人」であると知っていた
- 捕らえられても直ぐに解放されると思っていたのでは？
- ローマ総督ピラトのところへ連れて行かれるのを見て、自分のやったことの大きさに気付いた

## • 金を返して自殺ユダ

- 「罪を犯しました」と言って金を返そうとした
- 拒否されると神殿に投げ込み、首を吊った
- 罪の重さに耐えかねたのだろう＞死んでお詫びをする

# 救い主の値段

- 神の位を捨て、命さえも惜しまずに与えられた方の値段が「銀貨三十枚」
  - 「イスラエルの子らが値踏みした者の価」
  - 「銀貨三十枚」は奴隷一人分の値段
  - 地球上のすべての富をかき集めても足りないが、「僕の身分」になられたことを象徴している
- なぜ「陶器職人(陶工)の畑」が買われたのか
  - 預言書において主なる神はしばしば「陶工」として描かれる＞神に返された？
- 「外国人の墓地」が作られる
  - 異邦人に救いが広がることを暗示しているのか？

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

フィリピ<sup>2</sup>章6～8節